

**漢方製剤の記載を含む
診療ガイドライン 2022
(KCPG)
Appendix 2024 update**

2025. 1. 31

**日本東洋医学会 EBM 委員会
診療ガイドライン・
タスクフォース (CPG-TF)**

**Clinical Practice Guidelines
Containing Kampo Products in Japan
(KCPG)**

KCPG2022 Appendix 2024 update

31 Jan 2025

**Task Force for
Clinical Practice Guidelines
(CPG-TF)
Committee for EBM
The Japan Society for Oriental Medicine (JSOM)**

version の履歴

2025. 1.31 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2022 Appendix 2024 update
2024. 4. 15 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2022 Appendix 2023 update
2023. 8. 3 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2022
2022. 1. 31 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2019 Appendix 2021 update
2021. 3. 31 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2019 Appendix 2020 update
2020. 3. 31 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2019
2019. 3. 31 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2016 Appendix 2018 update
2018. 11. 30 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2016 Appendix 2017 update
2017. 10. 31 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2016
2015. 11. 25 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2013 Appendix 2015 update
2014. 12. 1 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2013 Appendix 2014 update
2013. 12. 31 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2013
2012. 12. 31 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2010 Appendix 2012 update
2011. 10. 1 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2010 Appendix 2011 update
2010. 6. 1 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2010
2009. 6. 1 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2009
2008. 4. 1 漢方製剤の記載を含む日本国内発行の診療ガイドライン
(中間報告 2007) ver1.1
2007. 6.15 漢方製剤の記載を含む日本国内発行の診療ガイドライン (中間報告 2007)

なお、漢方製剤の記載を含む日本国内発行の診療ガイドライン (中間報告 2007) ver1.1 の内容は、以下に詳しい。

Motoo Y, Arai I, Hyodo I, Tsutani K. Current status of Kampo (Japanese herbal) medicines in Japanese clinical practice guidelines. *Complementary Therapies in Medicine* 2009; 17: 147-54.

本 Appendix について

日本東洋医学会 EBM 委員会 診療ガイドライン タスクフォース (CPG-TF) では、わが国の診療ガイドラインの中から、漢方製剤に関する記載を調査し、「漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン」(KCPG) として[日本東洋医学会のホームページ](#)に公開している。

本 KCPG2022 Appendix 2024 update では、KCPG 2022 Appendix 2023 update 以後の 1 年間の動向について 2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日の間に「東邦大学・医中誌 診療ガイドライン情報データベース」に新たに収録された 262 件から選んだ 164 件を調査対象とし、同様に 12 件の情報を公開するものである。本報告と、KCPG 2022、KCPG2022 Appendix 2023 update とをあわせてご覧いただくと、「漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン」の現状がわかることになる。

本 KCPG2022 Appendix 2024update では、12 件の CPG を、タイプ A: 5、タイプ B: 3、タイプ C: 4 に分類して掲載している。(下記一覧は、タイプ分類ごとの発行年月日順)

発行年月日	ICD-10	診療ガイドライン名	タイプ 分類	前回 タイプ分類	Minds 掲載
20230828	N46,N70,N77 N80,N98	産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来編 2023	A	A	○
20230713	K59.0	便通異常症診療ガイドライン 2023 慢性便秘症	A	A	○
20230620	G62.9	がん薬物療法に伴う末梢神経障害 診療ガイドライン 2023 年版	A	A	○
20230500	I95.1	小児起立性調節障害診療ガイドライン 改訂第 3 版	A	C	×
20230320	L70.0	尋常性瘡癩・酒皰治療ガイドライン 2023	A	A	×
20230828	O21.0	産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023	B	B	○
20230713	K52.9	便通異常症診療ガイドライン 2023 慢性下痢症	B	— (初版)	○
20230220	R61.0	原発性局所多汗症診療ガイドライン 2023 年改訂版	B	B	×
20231100	F50.9	小児摂食障害診療ガイドライン (改訂第 3 版)	C	C	×
20230901	G36.0	多発性硬化症・視神経脊髄炎スペクト ラム障害診療ガイドライン 2023	C	— (前版記載なし)	○
20230515	M31.8	ANCA 関連血管炎診療ガイドライン 2023	C	— (前版記載なし)	○
20230220	Q43.1	外科疾患を有する児の成人期移行に ついてのガイドブック	C	— (初版)	×
20140401	C65,C66	腎盂・尿管癌診療ガイドライン 2014 年版	削除	B	—

なお、現在までに、KCPGに掲載されたCPG数は、以下のTableに示すとおりである。

Table 「漢方製剤の記載を含むガイドライン (KCPG)」に掲載されたCPG数

verison ごとの収載数

date	タイトル	調査日	東邦大学・医中誌 診療ガイドライン情報データベース			その他のCPG	漢方CPG		
			収録件数	調査対象CPG	調査対象中の漢方CPG		タイプAの件数	タイプBの件数	タイプCの件数
2025.1.31	漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン (KCPG) 2022 Appendix 2024 update	2024.3.31	4469 ¹⁾	2048 ¹⁾	161(7.9%) ¹⁾	0	39 ¹⁾	64 ¹⁾	58 ¹⁾
2024.4.15	漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン (KCPG) 2022 Appendix 2023 update	2023.3.31	4207 ¹⁾	1884 ¹⁾	158(8.4%) ¹⁾	0	38 ¹⁾	64 ¹⁾	56 ¹⁾
2023.8.3	漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン (KCPG) 2022	2022.3.31	3980	1722	152(8.8%)	0	37	62	53
2022.1.31	漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン (KCPG) 2019 Appendix 2021 update	2021.3.31	3624 ¹⁾	1867 ¹⁾	151(8.1%) ¹⁾	0	40 ¹⁾	64 ¹⁾	47 ¹⁾
2021.3.31	漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン(KCPG) 2019 Appendix 2020 update	2020.3.31	3291 ¹⁾	1619 ¹⁾	149(9.2%) ¹⁾	0	41 ¹⁾	61 ¹⁾	47 ¹⁾
2020.3.31	漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン (KCPG) 2019	2019.3.31	3000	1411	135(9.6%)	0	40	51	44
2019.3.31	漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン (KCPG) 2016 Appendix 2018 update	2018.3.31	2849 ¹⁾	1563 ¹⁾	132(8.4%) ¹⁾	0	39 ¹⁾	49 ¹⁾	44 ¹⁾
2018.11.30	漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン (KCPG) 2016 Appendix 2017 update	2017.3.31	2600 ¹⁾	1360 ¹⁾	118(8.7%) ¹⁾	0	33 ¹⁾	45 ¹⁾	40 ¹⁾
2017.8.31	漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン (KCPG) 2016	2016.3.31	2361	1158	104(9.0%)	0	30	37	37

【2015年以前】⁴⁾

date	タイトル	調査日	東邦大学医学メディアセンター website			その他の CPG	漢方CPG		
			収録 件数	調査対象 CPG	調査対象中の 漢方CPG		タイプAの 件数	タイプBの 件数	タイプCの 件数
2015.11.25	漢方製剤の記載を含む 診療ガイドライン (KCPG) 2013 Appendix 2015 update	2015.3.31	1609 ¹⁾	784 ¹⁾	91 (11.6%) ¹⁾	0 ³⁾	28 ¹⁾	28 ¹⁾	35 ¹⁾
2014.12.1	漢方製剤の記載を含む 診療ガイドライン (KCPG) 2013 Appendix 2014 update	2014.3.31	1415 ¹⁾	710 ¹⁾	82 (11.5%) ¹⁾	0 ³⁾	25 ¹⁾	24 ¹⁾	33 ¹⁾
2013.12.31	漢方製剤の記載を含む 診療ガイドライン (KCPG) 2013	2013.3.31	1308	671	74 (11.0%)	0 ³⁾	20	24	30
2012.12.31	漢方製剤の記載を含む 診療ガイドライン (KCPG) 2010 Appendix 2012 update	2012.3.31	1224 ¹⁾	642 ¹⁾	70 (10.9%) ¹⁾	1 ¹⁾	18 ¹⁾	24 ¹⁾	29 ¹⁾
2011.10.1	漢方製剤の記載を含む 診療ガイドライン (KCPG) 2010 Appendix 2011 update	2011.3.31	1117 ¹⁾	584 ¹⁾	58 (9.9%) ¹⁾	1 ¹⁾	11 ¹⁾	21 ¹⁾	27 ¹⁾
2010.6.1	漢方製剤の記載を含む 診療ガイドライン2010	2010.3.31	1008	528	51 (9.7%)	1	8	19	25
2009.6.1	漢方製剤の記載を含む 診療ガイドライン2009	2008.12.31	852	455	43 (9.5%)	1	7	16	21
2008.4.1	漢方製剤の記載を含む 日本国内発行の 診療ガイドライン (中間報告 2007) ver1.1	2007.3.31	573	346	35 (10.1%)	1	6	13	17
2007.6.15	漢方製剤の記載を含む 日本国内発行の 診療ガイドライン (中間報告 2007)	2007.3.31	570	570 ²⁾	47 (8.2%) ²⁾	2 ^{1,2)}	7 ²⁾	13 ²⁾	29 ²⁾

タイプA: 引用論文が存在し、エビデンスと推奨のグレーディングがあり、その記載を含むもの

タイプB: 引用論文が存在するが、エビデンスグレードと推奨のグレーディングのないもの

タイプC: 引用論文も存在せず、エビデンスグレードと推奨のグレーディングのないもの

- 1) KCPG Appendix 2011は、2010.4.1-2011.3.31の、KCPG Appendix 2012は、2011.4.1-2012.3.31の、KCPG Appendix 2014は、2013.4.1-2014.3.31の、KCPG Appendix 2015は、2014.4.1-2015.3.31、KCPG Appendix 2017は、2016.4.1-2017.3.31、KCPG Appendix 2018は、2017.4.1-2018.3.31、KCPG Appendix 2020は、2019.4.1-2020.3.31、KCPG Appendix 2021は、2020.4.1-2021.3.31、KCPG Appendix 2023は、2022.4.1-2023.3.31、KCPG Appendix 2024は、2023.4.1-2024.3.31の漢方が新規に掲載されたCPG、内容に変更のあった既収載CPGのみを収載しているが、ここでは、各々 2011.3.31時点、2012.3.31時点、2014.3.31時点、2015.3.31時点、2017.3.31時点、2018.3.31時点、2020.3.31時点、2021.3.31時点、2023.3.31時点、2024.3.31時点での全体の状況を示している。
- 2) 「漢方製剤の記載を含む日本国内発行の診療ガイドライン(中間報告 2007)」では、東邦大学医学メディアセンターwebsite収録の「診療ガイドライン」全てから漢方CPGを調査した。一方、2008年以後は、東邦大学医学メディアセンターwebsite収録の「診療ガイドライン」のうち、1) 外国のCPGとその翻訳版、2) 医療倫理に関するガイドライン、3) 動物実験や治験など研究に関するガイドライン、4) その他、臨床診療を目的としないガイドライン、5) すでに改訂版が作成されているCPGの旧バージョン、6) CPGのダイジェスト版、7) 患者向けCPG、を除外したものの中から漢方CPGを調査した。そのため、2007年の報告においては、2008年以後の報告とは、調査母集団が異なる。
- 3) KCPG Appendix 2012までは、「鼻アレルギー診療ガイドライン—通年性鼻炎と花粉症—」の書籍に付録としてつけられていたCD-ROM「アレルギー性鼻炎の科学的根拠に基づく医療 (Evidence Based Medicine) によるガイドライン策定に関する研究」は、漢方製剤に関しては、CD-ROMの内容と書籍の記載に関連性が認められず、CD-ROMの内容は、CPG作成の前に行われた別の予備的な研究であるとの解釈のもと、別のCPGとして扱っていた。しかし、本ガイドラインが、2013年版に改訂された際、CD-ROMの内容にも改訂が認められたことから、両者は一体のものとなすことにした。
- 4) 2014年4月1日から、東邦大学医学メディアセンターの「診療ガイドラインリスト」は、NPO法人医学中央雑誌刊行会の医中誌webにおいてガイドラインのタグが付けられていたものと合体され、「東邦大学・医中誌 診療ガイドライン情報データベース」(<http://guideline.jamas.or.jp/>)として公開されているため、KCPG 2016より本データベースに収載されたCPGを調査対象とした。

社団法人 日本東洋医学会
第7期 (2021.6-) EBM委員会
診療ガイドライン・タスクフォース (CPG-TF)

班長 chair

新井一郎 日本薬科大学

班員 member (3名, 50音順)

北川正路 東京慈恵会医科大学 学術情報センター

末田竜一 日本漢方生薬製剤協会 医療用漢方製剤委員会 有用性研究部会

平 雅代 日本漢方生薬製剤協会 医療用漢方製剤委員会 有用性研究部会

アドバイザー adviser (2名)

大谷 裕 東邦大学 医学メディアセンター

津谷喜一郎 公益財団法人 生存科学研究所

EBM 委員会委員長

小暮敏明 前橋ふえきクリニック

EBM 委員会担当理事

元雄良治 社会福祉法人恩賜財団 福井県済生会病院 内科 集学的がん診療センター
金沢医科大学

(日本東洋医学会 担当理事)